



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤憲治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

P1 2023年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(秋)を開催!

P2 医療技術部門管理資格認定制度 病院見学会を実施!

P3 日臨技支部医学検査学会開催報告(3)【北日本支部】

2023年度 医療技術部門管理資格認定制度 集合研修(秋)を開催!

この制度は臨床検査部門だけの管理者に留まらず、将来それぞれの職場で医療技術部門のリーダーや経営管理も担える人材を育成するために創設された認定制度です。連携する大学院とコラボし、事前にeラーニングでの講義を受け、一定レベルの内容を習得、夏と秋に行われる集合研修を受けることで受験資格が得られます。

本年度、秋の集合研修は「自院の経営環境分析スキルをマスターする」をテーマに、16名が受講しました。本ページでは受講者からの感想を紹介いたします。

また、10月28日(土)には、実際の病院運営について学ぶ機会として、医療技術部門管理資格認定の認定取得者を対象とした病院見学会が実施されました。次ページではその模様を紹介しています。

【1日目:11月18日】

オリエンテーション

『経営環境分析に向けて』

『外部環境分析①PEST』

『外部環境分析②地域』

講師：医療技術部門管理資格制度 医療管理者資格認定制度
審議会委員長 神戸 翼

【2日目:11月19日】

『外部環境分析③まとめ』

『内部環境分析①ヒト』

『内部環境分析②モノ』

『内部環境分析③カネ』

『内部環境分析④情報』

『認定試験に向けた課題レポートについて』

講師：医療技術部門管理資格制度 医療管理者資格認定制度
審議会委員長 神戸 翼

(敬称略)

◇ 受講者からの感想 ◇

小栗 大助 (大津赤十字病院)

より良い医療を提供したくても、我々の技術は健全な経営なくして患者さんには届きません。医療経営を理解するために、経営資源のヒト・モノ・カネ・情報をマネジメントとする内部環境と、医療政策の流れと地域の実状・未来である外部環境を理解することが重要です。

今回は内部・外部環境に関して、日臨技会館において神戸講師により2日間の日程で学びました。内部環境ではピラミッドの頂点に目標を掲げ、その根拠と主張を論理構造で整理するピラミッドストラクチャーというロジカルシンキングの枠組みを利用して、グループで意見を出し合い発表を通して情報共有しました。外部環境にはPEST分析という枠組みがあり、政治・経済・社会・技術の4つの視点で考えました。また、人口構造や地域の実状を理解するのに、自治体や医療機関からのビッグデータを如何にして活用するのか、パソコンスキルの重要性を再認識することができました。今後益々理解を深めて、明るい医療界形成のお手伝いできれば幸いです。

研修に尽力くださりました関係者の皆様ありがとうございました。

大野 一彦 (東京医科歯科大学病院)

本研修は、自施設の内部環境と外部環境分析の分析能力を習得することを目的に開催された。

研修会の事前資料には、地図上に各医療施設の病床数が丸の大きさを示された図など、データの収集方法や作成方法がわからない図が多く掲載されていた。不安が募るなか研修日を迎えたが、とても丁寧な講義のおかげで各グラフを簡単に作成することができた。とても感動した。

将来人口推計のグラフは自施設の所在地のデータ元に作成した。他の方のグラフは私の作成したものとは形が全く違っていた。地域動向を考慮して将来の戦略を考えることが必要であることがよく理解できた。

2日目は内部環境分析として施設規模が近い人でグループワークを行なった。うちの施設ではこうしているというアイデアをたくさんいただき有用であった。もちろん内部環境分析について学ぶこともできた。

また、他の方々の意識が高く、自分自身のモチベーションも高くなったように感じた。

一緒にグループワークしていただいた方々や講師の神戸先生に深く御礼を申し上げたい。

医療技術部門管理資格認定制度 病院見学会を実施！

病院見学を終えて

医療技術部門管理資格認定ホルダー
日臨技 執行理事 勝山 政彦



病院見学参加者

2023年10月28日（土）、医療技術部門管理資格認定の認定取得者を対象に病院見学会が開催され、全国から12名の認定取得者が東京都八王子市に集まりました。

今回の病院見学会は、民間病院グループにおける地域包括ケアの実践を学ぶことを目的とし、医療法人社団永生会 みなみ野病院と同会 南多摩病院の2施設を見学させていただきました。

最初に、みなみ野病院にお伺いすると、説明会に理事長も同席してくださり、自ら病院グループの講演をしてくださりました。みなみ野病院は、回復期・慢性期医療を担う病院で、患者を中心に長閑な丘陵地に病院が建てられ、景観や間取り・空間スペース・物の配置場所等にも配慮された設計となっており、魅力を感じる施設でした。加えて、スタッフの対応も素晴らしく、気持ち良く見学させていただくと共に多くのことを学ばせていただきました。一方、南多摩病院は駅の近くに位置し、救急医療を充実させて、地域の特徴を生かした医療を提供していました。同じ病院グループですが、機能の異なる2つの病院を見学させていただき、地域としての役割や立ち位置などを考える貴重な機会となりました。

病院見学後は、「医療技術部門管理とキャリア&マネジメントラダー構築」というテーマで4時間に及ぶグループワークを行いました。文献を7本ほど読み込み、その後で、6回のワークショップを実施しマネジメントラダーを作成しました。病院見学とは名ばかりで、実は机上の研修会じゃないかと思ったほどですが、他の参加者から貴重な意見を聴くことができ、学びが多かったワークでした。



医療法人社団永生会
みなみ野病院 へ向かう



病院見学後のグループワークの様子

今回の病院見学では、いきなり集合場所を間違えてご迷惑をおかけしてしまいましたが、楽しく、学びの多い充実した時間を過ごさせていただきました。

医療技術部門管理資格認定制度ですが、技師長や次に技師長を担われる方、または病院経営や管理などに興味のある方など多くの方に是非とも受講していただきたいと思っています。医療を体系的に学び、同じ志を持つ多くの方々と交流する機会を持つことにより、本人の学びだけでなく、学びを活かして自施設や社会のために役立てていただきたいと思います。

最後になりましたが、企画運営をしていただきました神戸先生、そして、快く迎えていただきました永生会理事長の安藤高夫先生はじめスタッフの皆様には感謝いたします。

本認定制度に関する特集を会報JAMT 号外として掲載しています。是非、チェックしてください。

会報JAMT Vol.29 号外（令和5年11月28日掲載）

【特別企画：座談会】新たな日臨技認定制度

～医療技術部門管理資格/

医療管理者資格認定制度への期待～

該当記事はコチラ→



日臨技支部医学検査学会開催報告(3)

2023年度 北日本支部医学検査学会

「温故創新」～ “今” の挑戦を “未来” につなぐ ～

学会長 山寺 幸雄
実行委員長 松田 美津子



学生フォーラム



学会長挨拶

令和5年度日臨技北日本支部医学検査学会（第11回）を、令和5年11月4日（土）・5日（日）に、福島県臨床検査技師会担当のもと福島市の福島県立医科大学保健科学部駅前キャンパスと福島学院大学駅前キャンパスにて現地開催しました。

学会のテーマは「温故創新（おんこそうしん）～ “今” の挑戦を “未来” につなぐ～」として、今まで培った知識と技術を継承しつつ挑戦を繰り返すことで、将来の臨床検査を創ろうと呼びかけました。

新型コロナウイルスの感染拡大から、現地にどれだけの人が参集してくれるか予測が難しい中で準備を進め、5類移行後も人の往来が元に戻らず心配しましたが、実際の参加人数は日臨技会員713名に加えて、賛助会員、非会員、学生を含めて800名を超え大盛況となりました。一般演題も151題とコロナ禍前を含め歴代トップクラスの多さでした。

特別講演は福島県立医科大学臨床検査医学講座主任教授の志村浩己先生に「臨床検査専門医からの提言」として、我々臨床検査技師へ大いなる期待を込めて愛情のこもった“喝”を入れていただきました。日臨技企画は「日臨技 精度保証の方向性」として、滝野専務理事に品質保証施設認証制度について解説いただきました。また、「学生フォーラム」では先輩臨床検査技師と学生が活発に意見を交換して有意義な時間となりました。

学会長特別企画では「初期教育と検査技師の未来」として、小規模、中規模、大規模施設の代表者から教育の工夫点や抱える課題などについて紹介いただき、参加者と一緒に考えました。

教育講演は7部門において企画し、シンポジウムは「救急医療」「遠隔医療」「タスクシフト法令改正」「2025年問題」「AIによる検査結果の自動判定」として、トピックスからこれから直面する問題に先駆的に取り組んでいる各講師より導入の経緯や体制などについて講演いただきました。

保健科学部の広いエンタランスで機器試薬展示を開催しましたが、37社のブースは多くの会員で賑わっていました。ランチョンセミナーも13題と多くの企業に共催いただきました。

4年ぶりに開催した情報交換会では福島の誇る日本酒でおもてなしをしましたが、300名を超える参加があり、皆様に久しぶりの大宴会を満喫していただけたと思います。

参加者、企業、実行委員が一体となって学会を盛り上げたことで、コロナ禍で抑圧された時期を払拭するような心に残る学会となりました。実行委員一同厚く御礼申し上げます。

（編集後記）令和5年、日臨技支部医学検査学会 が開催され無事に終了した。コロナ禍以来、3年ぶりに完全対面での開催となった。やはり対面は良い！懐かしい友との再会もあった。辛く苦しい時間を共有しながら、大きな犠牲も払ったけれども、お互いの無事を確認して思わず涙が溢れた。改めて危機管理の低さを思い知らされた。次こそは、この経験を活かして臨床検査技師として活躍したいと思う。（滝野）